



徹底強化した筐体に音楽性を加味
音も実体も重厚感ある作りとなった

Saburou Ubukata's Power strip

Design & production, Text by

生形三郎

●この電源タップの狙い

オーディオ再生の根幹とも言える電源の環境を向上させつつも、実現される音楽再生の音楽的なバランスを崩すことなく、音に適度な個性づけも期待できる電源タップの実現を狙った。サウンド的には、土台の安定感向上と雑味や歪み感を抑制しつつ、滑らかさやキメ細やかな表現が楽しめる音を狙いパーツを選定した。また、見た目的にも高級感や静かなインパクトを持たせるように努めた。

●音のポイントとアクセサリ対策
4つの要素を軸に音を吟味し
筐体のチューンを特に重視した

これまでさまざまな電源タップを試聴してきた中で、そのサウンドを決める要素は主に、①コネクタとコンセント、②電源ケーブル、③振動対策を含む筐体構造、④内外からのノイズ対策、だと認識している。特に基本的な音の方向性は、①と②で決まるのではないだろうか。

よって、今回のボックス作りでは、レギュレーションで固定となるベシシク樹脂製筐体を、いかに使いこなすかがポイントと考えた。①と②が優れていても、筐体の強度が不足すれば、磐石なボトム表現や十全なスケール感は期待できない。そこで、自宅でも導入して効果を確かめ済みのフルテック製コンセントベースを軸に、鉛シートを用いて箱の強度向上とノイズ遮断効果を狙った。



作者による自己評価

部材調達を依頼した時点から基本パーツの変更が利かないので、出たところ勝負な向きもあったが、性能の高さに満足しており、早速自宅でも愛用している。とりわけS/N感の高さと音の重厚感が気に入っている。

そして、要となるコンセントとプラグには、性能の高さと音楽性の高さが両立していると感じる。ワッターゲート製を採用した。高い基礎能力の上に、このメーカーならではの音の色気や雰囲気が出ている製品だと思う。

電源ケーブルは比較的低価格だが、PC・Tripple・C導体とコロイド液によって高い性能を持つ#308をチョイスして、伝送精度の確保を狙った。このケーブルは構造がシンプルなこともあるが、高い情報量と素直な音質を持つと認識している。

また、コンセントプレートは音の響きの質感を大きく左右するポイントだ。ここでは、静寂性が高いと感じる106・DNCFを選んだ。ステンレスをベースとしたシャープでタイトな音質傾向のプレートの裏側に鉛シートを貼ることで、幾分落ち着いた音調へとチューンした。

生形製作所のタップをこう聴いた

評価/福田雅光

極厚鉛ベースを装着した、こんな重いタップ、音も異色で例がない。何というか、熟女の気品がみなぎるではないか。あらゆることを知り尽くした、実にこなれた音質でコントロールされた、滑らかでしつやかな、そしてどこにも偏らない性質の帯域展開に特色。井上製作所の男の運しさと正反対だ。コントラストはやや弱く明快というタイプではない。欲望を抑え、しかし、粘りのある強さが、実に安定した落ち着いた表現をもたらしている。解像度は強力とはいえないが、音の密度は濃厚に出して、高音もきめ細やかだ。貴重な魅力は男性ファンにうけるだろう。何がそうしているのか、やはり鉛の威力なのだろう。ケーブルも関係している。

加えて、筐体内部に適量の電磁波抑制シートを貼りつけると共に、自作の仮想アースやオーディオアクセサリの素材としても知られるトルマリン石を、不織布に包んで筐体内に充填し、仮想アース的にも発展させられる可能性を持たせた。足回りは、特注のTGメタルを台座として筐体の安定感を大幅に高めるとともに、ハイリッド素材のインシュレーターを3点支持で履かせて、設置面で生じるガタツキも排除している。さらに、ケーブル部をNCF Boost erで保持した。